

計画演習 I

08

1. 近畿圏の大学のためのセミナーハウス

開講年次：学部3回生後期

[担当教員]

足立裕司（教授）三輪康一（教授）楳橋修（准教授）

[Teaching Assistant（修士1年）]

竹内一貴（A61）磯村和樹（A61）

■大学内の活動としての講義や演習・実習とは別に、ある一定の期間、空間を共にし、集中した活動や共通の目的をもって活動する場が求められている。この課題は、近畿圏の大学共通施設として位置づけ、セミナーや共同制作、スタジオ、社会との連携など学内では難しい様々な活動に対して自由で豊かな場を提供することを目的としている。

敷地は、兵庫県立明石公園の東端の「球技場・自転車競技場」（県立図書館・市立図書館東隣）の土地を想定している。現在は公園に含まれるが、計画に際して公園用地から外し、敷地は北側道路に接道しているものとする。とくに南側の公園（菜研堀、桜堀）などの景観・環境上の調和が求められる。（菜研堀を設計に取り込みたい場合は水辺まで敷地として組み入れてもよい。）

■計画敷地

別紙に示す敷地図をもとに「球技場・自転車競技場」の区域を各自が $10,000 \text{ m}^2$ 程度を設定しなさい。計画敷地への自動車でのアクセスは北側道路からとするが、人については、南側公園からのアクセスも可能とする。

■建築概要

建築施設の延べ面積は $4,000 \text{ m}^2$ 程度とし、階数、構造は自由とする。

■利用者

施設の利用者は主として大学生、大学院生、大学教員であり、15人単位（10人～20人）が6組宿泊でき、最大で150人の学生が共同で研修できる施設とする。また、指導教員や外来者が別に15人宿泊できる諸室を確保すること。

■施設機能・所要室

以下の所要室はあくまで目安であり、変更は適宜可能である。ピロティ、吹き放し廊下等は面積に含めなくてよい。大きく研修機能と宿泊機能に分けて提示するが、一体的に扱うことも可とする。

- A) 研修機能 $2,200 \text{ m}^2$ 程度
- B) 宿泊機能 $1,800 \text{ m}^2$ 程度

■提出図面

- A1 の用紙にコンパクトにまとめること。
- ・全体配置図 scale 1/500
- ・各階平面図 立面図 断面図 scale 1/200
- ・透視図または模型写真

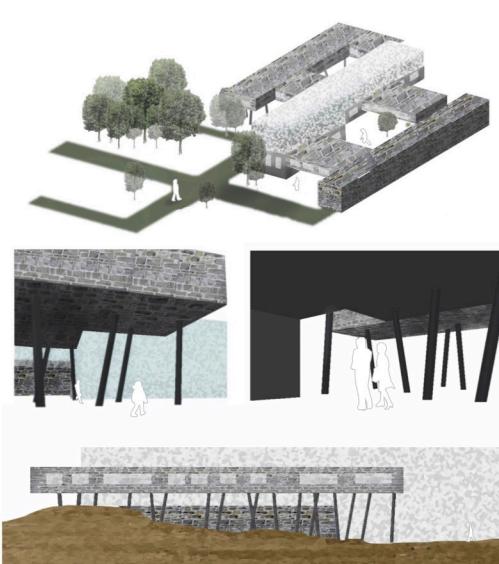


道

中川絵理香

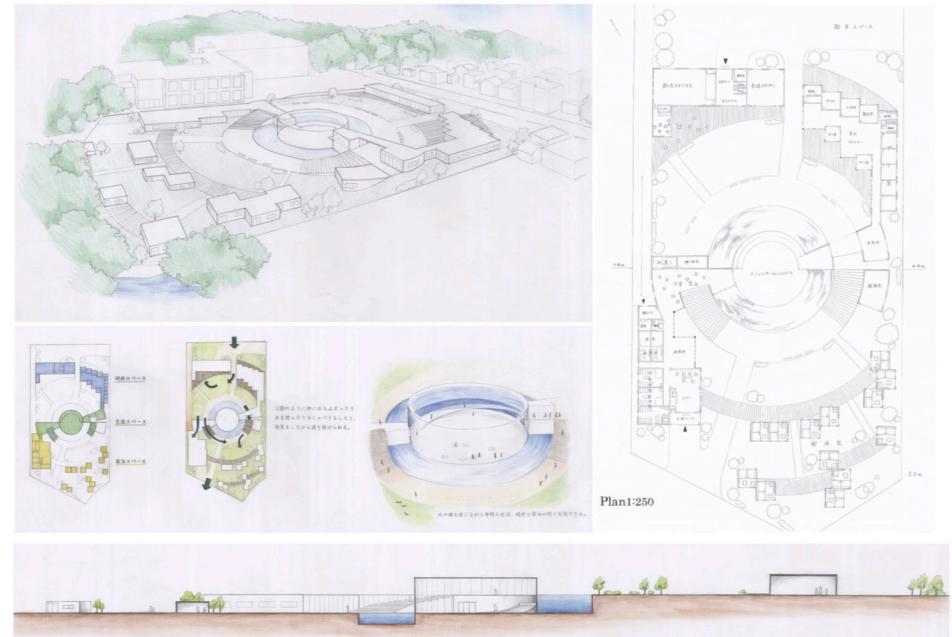
敷地である明石の歴史を感じさせる石積みからセミナーハウスの形態をつくる。

石積みの石と石の間に着目し、道や廊下のような場を考える。宿泊の場、共有の場、創造の場という主な3つの機能を学びの場と食事の場で道のようにつなぐ。それぞれの場と場は混ざり合い、干渉しあう。



Promenade House - 共に学ぶ、共に暮らす、共に歩く。-

松崎篤子



点と線

崔秋韵

道が統いて、ふと途切れる。

時間が自然と流れるように道も流れ、今どこに居るかを再確認するよにまた途切れる。

立ち止まった地点の一つ一つの景色が異なった顔をみせる。



Seminar House

小松昌平

画一的な屋根、壁を持つ均質な空間の中では、活動は制限され、創造力は衰退していく。

ここでは、活動空間の壁を取り払い、周辺との物理的な障壁をなくすと同時に天井面の高さを機能ごとに変化させていくことによって、視覚的、感覚的な空間の区切りを生み出す。

曖昧な境界をもったこの施設では、学生の活動は外へと染み出し、生活を共にする生徒、公園を利用する人々へと広がっていく。



境界のない世界

田中健人

本作品は自然と人工のあいだのような空間、内外の境界があいまいな空間をテーマとして取り組んだものである。

建築において内外の領域を規定する主たる構成要素である壁、屋根を操作し、空気の膜のような空間の揺らぎを設計することを試みた。

